



初詣・餅つき・獅子舞



～目次～

- 病院短信 高野 正孝
- 日常の一コマ 西田 正子
- いきいき看護・介護 杉山 奈緒子
- 薬剤科だより 長瀬 敏枝
- 初詣・獅子舞 病棟デイルーム
- スタッフ紹介 伊藤 美月

2月の予定

◇誕生日会&節分

1病棟	2月 3日 (金)
2病棟	2月 6日 (月)
3病棟	2月 7日 (火)
各病棟デイルーム 14:00～	



スタッフ紹介

2病棟 看護師
いとう みつき
伊藤 美月

星座：うお座
血液型：O型
趣味：アウトドア



10月に入职しました。先輩スタッフや患者さんから日々多くのことを学ばせていただき、感謝でいっぱいです。プライベートでは、最近1歳になったばかりの子どもとの時間が一番の癒しになっています。これからも患者さんが笑顔で穏やかに過ごせるよう頑張ります。今後とも宜しくお願いいたします。



病院短信

医療はアート

副院長 高野 正孝

2023年も色々なことが起きる激動の年となるでしょう。何が起ころうと、自分軸をしつかり保ち、希望を持って歩みましょう。

ちょうど1年前の2月には、当院でコロナの院内感染を経験しました。その時、「医療は技術であり芸術である」と私は実感しました。

私の担当する第2病棟（当時総数55人）は、5日間で感染がほぼ全員に広がりました。オミクロン株は確かに感染力が強力であることは間違いありません。病院のコロナ対策ルールで、病棟スタッフは一度病棟に入ると、夜、退勤するまでは病棟から出られません。一日中、病棟内で過ごしたのです。スタッフ全員が病院で用意されたN95マスクや防護服などを着用して黙々と働いていました。防護服は色がブルーなのでひととき目立ちます。スタッフが患者さんの集まるホールを行き交う光景は、まさに戦場の病院のようでした。私は若い頃、タイのカンボジア難民キャンプで診療したことがあります。その時よりはるかにひっ迫した情景でした。師長のときばきした指示で、みんな淡々と働いていました。感染発症から5日目までに、第2病棟スタッフのほぼ半数がコロナに感染し、6日間の自宅待機となりました。スタッフの半数が欠勤となつてしまったのです。半数が欠勤となると、病棟は回らな

くなりません。他の病棟からスタッフの応援をもらいました。医者の私は重症化しそうな患者の治療が主な仕事でした。重症の患者は少ないのでその治療をすればあとは医者の仕事はありません。といってもスタッフたちは病棟を走り回っています。私は少しでも手伝おうと、時間があれば電話番号をやったり、処方箋などを運ぶ運搬係をやりました。それをやりながら、私はスタッフたちの行動を見ていました。自分も感染するかもしれない状況下で、黙々と師長の指示に従って患者のケアをしている姿は、美しくもあり、神々（こうごう）しくもありました。「医療はアート（芸術）である」といわれます。真摯に生命と向き合う姿はまさにアートであり美しいと私には映ったのです。

医療技術と愛情が一つになると、医療は芸術の域に達すると私は思います。医療者はそこに到達するのを目指したいものです。今年もそれを目標に頑張ろうと思っています。



日常の一コマ

今月は2病棟の孝子さん（90歳）の一コマです。孝子さんは東京都日本橋で5人兄弟の長女として生まれました。戦時中は疎開先の春日部で過ごし、高校を卒業後は家業の事務経理を手伝っていました。そして28歳で結婚、2人のお子さんに恵まれました。その後、建築家のご主人が足立区に家建て転居されましたが、お子さんは日本橋の学校に通い、孝子さんも日本橋のご友人と連日お稽古やお芝居、旅行などを楽しまれていたそうです。



平成12年にご主人が他界され、次女さんと同居を始めましたが、平成24年頃から「同じものを何度も買ってくる」「薬の管理ができない」など、少しずつ認知症状が出始めたそうです。

平成27年、銀座でご友人と会っている時に転倒し、それまで社交的だった孝子さんは徐々に外出しなくなりました。その後デイサービスやショートステイなどを利用しながら平成28年に老健施設に入所されました。施設に入所してからは、歩くこともおぼつかなくなり、認知機能の低下がさらに進行して、車いすから頻回に立ち上がるなど、落ち着かない症状が見られ始めたため身体抑制をされるようになりました。自宅での介護を目指していましたが、薬剤を調整しても症状が落ち着くことがなかったため、平成30年9月に当院へ入院することになりました。

入院当初の孝子さんは落ち着かない様子で、車いすのブレーキを外し、急に立ち上がろうとするなど目が離せない状況でした。しばらくするとさらに認知症が進行し、以前のような活発な体動は無くなり始めましたが、お話好きな孝子さんですから、たとえ会話が成立しなくてもこまめに話しかけ、傾聴を続けました。今は夜間に見回りに行くと、一人で楽しそうに歌っていたり話していたり、私たちの声掛けに笑顔を見せてくれたりと



とても穏やかに過ごされています。優しい気性の孝子さんは、嫌がる人の多いオムツ交換の時でも一度も怒ることなく「お姉さん大変ね」「お姉さん綺麗ね」など、ねぎらって下さいます。時々祭囃子のような歌を口ずさんでいますが、それは不安だったり怖かったりする合図です。そんな時は「大丈夫ですよ、大丈夫」と声をかけ、孝子さんの上品な笑い声「オホホホ」が出たらOKです。これからも一緒に笑いながら穏やかに過ごして頂けるよう、職員一同協力し、努力していきたいと思ひます。

2病棟 介護福祉士 西田 正子

薬剤科 だより

<貧血の治療に処方される鉄剤について> 薬剤師 長瀬 敏枝

鉄剤を服用中、お茶と一緒に呑んでも大丈夫、というのはご存知ですか？その昔は、鉄剤の服用30分前～1時間前後は緑茶の飲用は控えると医学書にも書いてありました。緑茶に含まれるタンニンと鉄イオンが結合して吸収が悪くなるからです。ところが30年くらい前の臨床血液学会で「緑茶の飲用は徐放鉄剤の効果に影響を与えない」という研究発表がされてから、大きく変わりました。理由は、

- 1) 鉄欠乏性貧血では鉄吸収率が亢進していること（吸収が良くなっている）
 - 2) 鉄剤中の鉄は大量（50～200 mg）であり、吸収が悪くなったとしても造血に必要な1日の鉄量（0.4～0.9 mg）を下回ることはない（必要な鉄量は充分）
- ということです。そして、貧血の治療中でも安心して緑茶を飲めることがわかりました。



いきいき看護・介護

1病棟 介護福祉士 杉山 奈緒子

2月3日は節分ですね。節分という言葉には「季節を分ける」という意味があります。昔の日本では春が一年の始まりとされたため、春が始まる前の日、つまり冬と春を分ける日だけを節分と呼び、特に大切な行事とされてきました。

節分は「みんなが健康で幸せに過ごせますように」という意味を込めて、悪いものを追い出す日とされています。「鬼は外、福は内」と言いながら豆まきをする風習は皆さんもご存知ですよね。

当院でも毎年2月のお誕生日会の日には鬼がやってきました。今年も患者さんに元気いっぱい豆を投げてもらえるよう、鬼退治の計画を立てているところです。本物の豆で豆まきをするのはなかなか難しいので、ボールを豆に見立てて実施しますが、患者さんたちはかなり本気モード（笑）。鬼役のスタッフは結構大変なんです。でも、患者さんにはこのような行事で少しでも季節を感じてもらいたいと思ひます。そして、今年1年間、皆さんが健康で幸せに過ごせるよう願っています。

